

中西健夫(なかにし・たけお)先生

株式会社ディスクガレージ 代表取締役社長

1956年生まれ、京都府出身。血液型A型

京都産業大学経済学部卒業

1972年、京都にてバンド活動開始

1979年、メジャーデビュー(全く売れず1年で解散)

1980年、(株)ディスクガレージにてアルバイトを始める

1981年、(株)ディスクガレージの社員となる

1990年、(株)ディスクガレージ 取締役専務に就任

1993年、(株)ディスクガレージ 代表取締役副社長に就任

1997年、(株)ディスクガレージ 代表取締役社長に就任



その他兼任： 社団法人 全国コンサートツアー事業者協会 副会長

特定非営利活動法人 音楽文化振興委員会 理事長

WHDエンタテインメント株式会社 代表取締役CSO

株式会社インターブレンド 代表取締役

趣味： サッカー。暖かいところへの旅行。

モットー： 人との出会いを一番大切にする事。夢を夢で終わらせないこと。

〈講義概要〉

数多くの音楽ライブの企画を手掛け、エンタテインメントの様々な分野で活躍中の、株式会社ディスクガレージ代表取締役社長中西健夫氏が、音楽とエコのコラボレーションについて講義を行った。

講義ではまず、音楽をはじめとしたエンタテインメント産業の各分野の現状を紹介。その後、音楽ライブがエコについて考えるきっかけになるという具体例として、エコをテーマとしたライブ映像を流し解説した。受講生は、その効果を実感するとともに、「人にきっかけを与える」という、音楽やエンタテインメントのあり方について学んだ。

また、地球環境について考えることの重要性にも触れ、エコについて敷居を低く捉え、できることから行動を始めることが何より大切だと伝えた。

受講生は、中西氏の熱い思いに触れ、アーティスト、ライブ、音楽、エンタテインメント、さらには地球環境、そしてそれらのつながりについて、改めて深く考えさせられた。

〈受講生の感想〉

“音楽自体はエコではないけど、エコを考えるきっかけになればよい”というポリシーで様々な活動がされていることを知りました。今まで音楽業界には興味がなかったのですが、今日のお話でたいへん興味を持つことができました。

同志社女子大学・表象文化学部・2回生

私はエンタテインメント産業を目指していたのですが、最近、それが何になるのか、ということに対して疑問を持っていました。しかし、今日の講義を聞いて、「何かのきっかけになる」為の産業であり、それがとても効果のあるものなんだと思いました。エコについて、多方面からのアプローチがあることを知れて、とてもよかったです。

立命館大学・産業社会学部・1回生

先生の仰った、“夢を夢で終わらせない”、“無理だと言われたことに立ち向かう”という言葉が、とても印象に残りました。私は今、自分の将来のことを真剣に考えるようになり、目指す分野が変わり、転学なども視野に入れて悩んでいたのですが、先生のお話をきいて、やっぱり頑張ってみよう、諦めたくない！と強く思うようになりました。本当に素晴らしい講義をありがとうございました！

同志社女子大学・学芸学部・2回生

今の日本のレーベル市場が落ち込んでいることは前から知っていましたが、実際数字に示してみるとその差は一目で分かり、中でも驚いたのが、有料配信数が爆発的に伸び、他を凌駕していることです。CDを買うより曲を一つ一つ買う方が今のニーズに合っているのだと思いました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

「なんでエコが大切だと思いますか?」という質問に対する先生の答えにすごく納得しました。自分が生きている間に地球が深刻な事態になって住めなくなるってことは無いと思うけど、自分の子どもの世代を考えるとエコに真剣に取り組まないといけないと本当に思いました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

今回、中西先生のお話を聞かせていただいて、音楽を通してエコをさらに身近に感じる事ができました。音楽とエコとのつながりが人とエコをつなぐカギになるのではないのでしょうか。1人1人の小さな意識が、いつか大きな化学反応を起こす事ができたらいいなと思います。エコとはファッション!! この言葉は凄く素敵だなあと感じました。まず自分ができる事からはじめてみようと思います。

立命館大学・産業社会学部・1回生

